

学校の教育活動から

○阿蘇の豊かな自然の中での充実した体験！

11日(月)から13日(水)にかけて、5年生の皆さんが「国立阿蘇青少年交流の家」に自然体験に行きました。昨年度までは「国立夜須高原青少年自然の家」において、4・5年生が一緒のグループを作って活動していたのですが、今年度からは、阿蘇の豊かな自然の中で、5年生のみが体験活動を行うようにしました。子ども達は2泊3日の活動において、緑豊かな阿蘇の自然を満喫しながら貴重な体験をするとともに、学級の友達同士の絆も深めることができましたようでした。

※4年生の皆さんに関しては、11月に「国立夜須高原青少年自然の家」にて、日帰り野外調理の体験をする予定です。



感じたことから

○「意見交換」が意義あるものになる為には…。

5年生の「自然体験」の中では、子どもたちが、長い距離を歩く活動がたくさんありました。2日目のある活動の際、わたしもさすがにくたびれて歩いていると、前の方にいる男子の数名が、女子の荷物を持ってあげているのではないですか。「何とやさしい子たちだろう！」と感心して見ていました。すると、別の子が「荷物は自分で持った方がいいじゃないかなあ」と言っていました。確かに一理あります。この後、この両者が話し合ったかどうかは分かりませんが、お互いの意見を出し合ってみるのもいいのかなあ、思いました。

「荷物を持ってあげている子」にとって

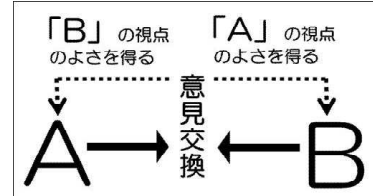
“疲弊している子の荷物を持ってあげるのはいいことだけれど、**元気な子の分まで荷物を持つというのは、よい行為というわけではない**”という**新たな理解**が得られます。

「荷物を持つべきだという子」にとって

“自分の荷物を自分で持つというのは、正しいことだけれど、**疲弊している子の分をもってあげるというのは、優しい行為である**”という**認識の再確認**になります。

生活の様々な場面で、対立する意見が出てくるのは当然のことでしょう。そのとき、意見をきちんと出し合って、対立する意見のよさを確認し合うことができれば、人としてのよさはぐんと深まることでしょう。

例えば、「A」と「B」という**対立した意見が出た場合、右図のように意見交換をして、「A」「B」それぞれに新たな視点を得ることができれば、素晴らしいことだと思います。**



ただ、そうした意見交換をする場において、「**自分が正しい」「相手が間違っている**」と思っ**て臨むと、意見交換としての場のよさは失われ、逆に対立は深まってしまふことになりがち**です。

そのことに関して、ある本の中に次のようなことが書かれていました。

あるところに、喧嘩が絶えない家庭Cと、仲睦まじく過ごしている家庭Dが隣合って暮らしていました。あるときC家の主人が、D家の人に仲良く暮らす秘訣はないか尋ねました。すると、D家の方はこういったのです。

「**秘訣など何もございません。ただ、お宅様は、善人(正しい人)ばかりがお集まりだからでしょう。私の家は悪人(よくない人)ばかりがそろっていますので、喧嘩にはならないのです。**」と言いました。

善人同士なら喧嘩になるはずがありません。てっきり皮肉られていると思ったC家の主人は腹を立てて家に帰りました。憤慨していたC家の主人ですが、しばらくすると、D家の方から茶碗が割れる音がしました。その時「わたしが足元を確かめなくて茶碗を割ってしまいました。私が悪うございました。」「いえいえ、そんなところに置いていた私が悪かったのです。」という会話が聞こえてきたのです。お互いが**自分の悪さを認めていたのです**。C家の主人は、自分の家だったら、「割ったあなたがそろっかしいからだ!」「そんなところに置きっぱなしにしているお前が悪い!」と自分が**善人(正しい人)で相手が悪人(よくない人)**としての言い合いになるだろうと思ひ、D家の人に言ったことが理解できたそうです。

対立した意見の交換の場合でも、自分だけが正しいというスタンスではなく、相手の正しさを取り入れ、自分に足りない部分を補っていきたいという思いで臨むことができれば、意見交換は素晴らしい場になるのではないかと思います。